



市長と

車座トーク

第50回 伊勢丘学区（概要）



開催日時 2018年(平成30年) 1月12日(金)

19:30~20:40

開催場所 伊勢丘公民館

参加者数 10人

次 第 市長のあいさつ

意見交換

地域からのまとめのあいさつ



<車座トークでの主なご意見>

- ・町内会自治会では、子どもたちに将来に夢と希望を与え、ふるさとの思い出になるような世代間交流や、ふるさと祭り、ごみ拾いなどの環境美化運動、資源回収等に積極的に取り組んでいる。新しい町内会が2つ出来たので、若い世代とどのようにバランスを取っていくかが課題である。
- ・高齢化が進み医療費が増加し、国保税の値上がりが進んでいる。市民が被保険者として出来ることは健康であり、健康寿命を延ばすことが一番。また、医療費増加に少しでも歯止めをかけるためには、ジェネリック医薬品の使用がある。国民健康保険の被保険者証を送付する際、ジェネリック医薬品お願いのカードが添付してあり、市でも広報活動に努力されているが、より利用率、使用率が上がるよう周知徹底をしていただきたい。行動へ移すことが自分の税負担の軽減に繋がることをわかってもらうような形が望ましい。医師会や薬剤師会へ働き掛け、市民が自然にジェネリック医薬品を使用出来るようお願いしたい。また、お医者さんに気を使わなくても済むようにしていただきたい。
- ・地域包括ケアの地域での認識度が全くない。広報を使って理解活動をする必要があると思う。地域に

おける生活支援をどうするかが課題であると認識している。主体的に動くのは単位町内会であると思うが、この音頭をとるのは学区や自治会連合会であるということを明確に示して欲しい。

- ・立派な活動をされている地域の活動事例を聞くと、地域の状況把握のためにアンケート調査をしたと聞く。アンケート調査は、質問の仕方によって行きつく方向が変わる。行政や社会福祉協議会で調査票を作成し広めて貰い使用したい。
- ・単位町内会で子ども神輿と一緒に作った人が包丁研ぎをされている。このような方を登録しておく生活支援にしても組織的な動きが出来るのではないか。生活支援をすべてボランティアでやるとなると困難であろうと思うので、公費からの報酬、行政の指導や見本が提示出来れば是非お願いしたい。
- ・昨年10月に土砂災害の危険があるとしてLアラートが発信されたが、発信が届いていない人がいた。自治連として何らかの連絡をする必要があり市民全員へ情報が行き届くことが必要である。どのようなになっているのか教えていただきたい。
- ・土砂災害危険箇所が指定されているが、地域で全て見なさいと言うのか、或いはある程度地域が確認して、このように変化して特に危なくなっていますと行政に言うのか、行政がどのように動いているのかお聞かせ願いたい。
- ・道路の端に土砂が溜まり中々取れずそこから草が生えてくる。掃除をする機械があれば違うと思う。雑司池の周りを含め桜の名所として整備していきたいのでバックアップをお願いしたい。
- ・運転免許証を返納して一番感じるのが、車に代わる交通網の整備が福山は非常に遅れているということ。バスに乗って市の体育館へ行こうとすると、一旦福山駅まで行くことになり交通費が嵩む。免許証を家族から返納するよう促されると自信がなくなり、引きこもりや外出を控え認知症へと進む気がする。運転免許証を返してもプラスになることがあると気持ちよく返納出来るのではないか。
- ・伊勢丘幼稚園と伊勢丘保育所を統合し現在、(仮称)東部こども園を建設中であるが、伊勢丘幼稚園閉鎖後の跡地の活用方法について地域の意見を取り入れて欲しい。
- ・ロボット公園をはじめ遊具が古くなっており小さい子どもが遊ぶには不安が大きい。公園で遊ぶ子どもたちには、時間を意識して帰宅して欲しいが、学区内に9つある公園の内、時計があるのは1つだけ。自ら意識し学ぶためにも時計を設置して欲しい。
- ・保育士の知人から「保育士が少なく大変だ。困っている。」と聞く。働く人に笑顔がないと子どもに笑顔が増えないと思う。
- ・町内会の中に県指定のがけ崩れの指定箇所が2か所ある。一つは、コンクリート側壁の水抜き用の穴から土砂が噴き出す場所。もう一つは、コンクリート打ちっ放しの大きな法面で石が転がり落ち崩れの予兆があり心配している。市の担当課から「不在地主のものでどこに住んでいるかわからない。確認に来ても民地なら何も出来ない」との返答であった。昨年、一昨年と現場を確認しているが、水が流れ込み空洞になっているので何とかしていただきたい。
- ・町内会を脱会したいという声を聞く。町内会がないと市行政と住民との関係が上手くいかない。市として市民へ町内会に加入するよう積極的にアピールしてもらいたい。既に実施されている情報があれば教えていただきたい。
- ・伊勢丘33水路から黄色い汚水が出ている。雨が降るときれいになるものの、有害性を心配しているので、有害性の調査、発生源、対策を検討していただきたい。
- ・競馬場跡地に体育館が出来ることは喜んでいるが、多目的広場の整備を早くして欲しい。市全体の高

齢者が集まりグラウンドゴルフが出来る大きな会場がない。市の中心へ作って欲しい。

- ・防犯灯がLEDに替わり10年間はメーカー保証で対応してもらえるが、その後の対応が心配。ある町内会では130灯くらいあり町内会負担分をどう予算化していくかで困っているの、検討していただきたい。

<市長のまとめ>

- ・ジェネリック医薬品については、医療費抑制のため、わかりやすく個人に結果を伝えようと、差額通知をしている。新薬と比較して「これだけ医療費（薬価）が節減されました」と通知することで個人として協力していると実感出来ると思う。医者に対して気を使うというのが昔はあったが、今は、ジェネリック医薬品があるけれど効果が変わりないがどうするか、と話をしてくれる医者が増えている。効能がどうしても新薬を使わないといけない場合以外であれば、院外薬局でも自由に変えていいと処方箋を書いて説明してくれる時代になりつつあるので、お医者さんにジェネリック医薬品を使いたいと言っていたきたい。勿論、市の広報やあらゆる機会を通じて努力していきたい。
- ・地域包括ケアについては、その意味や旗振り役、参加者が曖昧で十分浸透していない。出前講座があるので担当課から細かく説明する。
- ・生活支援の取組を無償のボランティアでやり続けること、もしくは、福山市の協働のまちづくりがこれから本当に今までのやり方で維持していけるかどうかには問題意識を持っている。今までは行政がやることは行政、地域がやることは地域がやってください、機械や道具は貸し出すので、労力は提供してもらおうというように、ボランティアに近かった。これまでのやり方が本当に良いかどうか勉強している。その中で新しい協働のまちづくりの在り方を探っていきたい。
- ・防災Lアラートについては、訓練の音が聞こえなかった時にどういう状況であったか教えていただきたい。今の取組としては、携帯にメールで連絡し気がつかない人にはテレビやラジオで連絡を流す。或いは、自治会にファックスで流し自治会の責任者の方から地域へ情報を流していく方法を同時並行的に幾つかの手法を使ってやっている。それでも届かなかったという事例を具体的に教えて欲しい。
- ・土砂災害の危険箇所について、まず県が調査、その結果危険箇所として指定した方が、住民の皆さんに意識を持っていただけて、安全につながると判断した場合は、地権者の了解を得て説明のうえ地域指定する。地域指定をしたからと言って県・市が土砂災害を防止する事業を行うということではない。まず、そこに住んでいる方がすぐ逃げられる、危険を察知出来るという意識を日頃から持つということから危険に対する対応がスタートするという考えである。
- ・調査するのは広島県だが、広島県と地域で議論してどこを指定すべきなのか。そういうところ含めて議論して欲しい。放っておくと危ないということになれば、地域の土木常設員の方々も議論に入ってもらい更に事業をするかしないか。という段階に入っていくことで進めていきたい。
- ・雑司池の堤の内側は春日地区水利組合と行政が一緒になって管理することになっている。堤防の道路と道路の外側は伊勢丘の皆さんに雑草の除去や美化をお願いする役割分担でやらして欲しい。
- ・池の内側に泥が溜まってそこへ雑草が生えている話があったので、行政と春日の水利組合と相談しながら環境が維持出来るよう対応したい。
- ・免許返納が高齢者のひきこもりにつながってはいけないと思う。ただ、人口減少社会の中で、行政が補助金を出し、路線を維持することにはならない。住民が積極的にバスを利用し事業者の経営が成り

立つように持っていけないといけないが、ゴールはそんなに易しくない。まずは、今のバス路線の停留所までどのように高齢者を運ぶかという取組でカバーしていく。地域で運行計画を作成した上で、一つは地域でボランティアの運転手を確保し、車を市から借りて送迎する方法と、もう一つには、事業者には運行してもらおう方法とがある。既に実施済の学区もあるので、一度勉強してみてもどうか。

- ・閉園後の幼稚園の跡地利用は、地元の意見も聴きながら考えていきたい。労働人口が減るに伴い税収が減り少子化のなか行政サービスの需要は高まる。これまでは地域の人に使ってもらうことが出来たが、民間に売却し売却益で穴埋めするという考えも取り入れないと成り立たない。両方をにらみながら地域に活用出来る方法があれば議論したい。施設が壊れたり傷んだりした際「市が直してくれ」ではつらいので相談させて欲しい。
- ・公園遊具の問題は、具体的にどこがどのように壊れているのかを一緒に確認をしたい。危ないのなら直さないといけない。また、市内の公園に時計を設置しているところは少ないはず。今までは地域の人子どもとのふれあいを通じて時間の感覚を育てていたと思うが、どうしても時計が必要な公園は地域の声を聴いて考えたい。
- ・市内の保育所における保育士数は、国の定めた基準を満たしており基準以上の負担はかけていない。障がいを持つ子どもがいる場合は、「加配」と呼ばれる保育士の追加配置によって元気に子どもに接することが出来る環境を作っている。引き続き保育士を確保することに努力していきたい。
- ・「民有地だから何も出来ない」と最初から現地確認もするかしないかのような対応は良くない。民有地であれば、所有者を探す努力をしなくてはならない。所有者に現状を説明して対応してもら場合でも、または行政で応急対応することを認めてもらう場合でも、現地確認は必要なこと。地域の人に安心していただけるよう、行政として地権者を特定するために出来ることはする。
- ・ライフスタイルの変化により、町内会に入る意義が分からない、町内会に入ることが煩わしい、と感じる世代が増えてきた。町内会自治会に入ることの意味は、防災、子どものためだと思う。市としても町内会への加入を積極的に進めており、例えばマンションの建築時に、建設業者へお願いし、一棟まるごと町内会に加入したという実績もある。
- ・排水については、鉄バクテリアが繁殖しやすい土質により水が茶色になっている。自然由来のもので有害性はない。
- ・競馬場跡地については、市民共有の財産である広大な土地を遊ばせるのはもったいない。総合体育館の完成と共に一体的な利活用の方策を考えるのも一つの方法である。時間をいただき議論を整理したい。欲を言えばきりが無いが、結構グラウンドゴルフ場はある。もう少し時間をいただきたい。
- ・LEDを進めるときに市と学区で約束事を取り交わしている。耐用年数が過ぎ更新する際は地元学区も一部負担するのが当初の約束事だと聞いている。地元が一度にお金を出すのは負担なので、更新時期に備え最初から計画的に貯めていこうとなっているので一度確認をさせてもらいたい。全部が地域の負担ではない。基準があり地元と相談し決めているので双方で確認したい。

<地域からのあいさつ>

貴重な時間の中で出された意見に市長が一つ一つ丁寧に答えていただけて本当に良かったです。今日出された意見を市政に反映させてもらいたいと思います。私たちも協力出来るものは協力したいと思います。今日は、本当にありがとうございました。